

産業を中核とした近畿地方の地域的特色

～未来を創造するグローバル市民たち～

授業者 附属池田中学校 田中誠也

1. 対象 第2学年A組(36名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

近畿地方について、地域的特色や地域の課題を理解する。

産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生じる課題を理解する。

地域の課題の解決につながる情報を読み取り、効果的な形式でまとめるなどの地理的技能を身に付ける。

・思考力、判断力、表現力等に関して

近畿地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。

・学びに向かう力、人間性等に関して

近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

3. 指導にあたって

(1)教材観

学習指導要領において本単元は、「C 日本の様々な地域」「(3) 日本の諸地域」の学習に該当する。この項目のねらいについて、学習指導要領では、

空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。(下線部は筆者による)

と書かれている。近畿地方の学習において、「地域」の視点に着目して、単元を構想する。また、「地域の特色ある地理的な事象」として、大阪・関西万博、大阪 IR を取り上げる。これまで、近畿地方は、阪神工業地帯を中心にして、産業を発展してきた。2025年には大阪・関西万博、その後の大阪 IR をきっかけにして、新たな産業の発展が構想されている。近畿地方の今後の産業の発展の背景には、うめきたエリアの再開発、大阪 IR に代表されるベイエリアの開発、なにわ筋線の開通などがあり、大きく影響を及ぼす要素がある。一方で、2025年問題に代表される、働き手の人口減少が予測され、産業構造の変化が求められている。2025年問題とは、団塊世代が75歳上の後期高齢者となることで起こる、社会保障費の負担増や働き手不足などの問題のことである。働き手不足は、産業全体に影響を与え、今までとは異なる産業の姿を構想することが求められている。

産業を中核として、近畿地方はどのような地域であるのかを理解するとともに、2025年問題の解決策を構想することを単元全体として学習の中心にしていく。

(2)生徒観

「C 日本の様々な地域」「(1) 地域調査の手法」で、生徒たちは地域調査を行う際に、探究しがいのある探究テーマを立てる手法を身につけた。また、その探究テーマの答えを出すためにはどのような項目を調べればよいのか学習した。授業後のアンケートにおいて、「探究テーマは探究しがいのあるものになったか」という問いでは、「とても探究しがいのあるものだった」(21.4%)、「まあまあ探究しがいのあるものだった」(65.8%)という回答であった。8割以上の生徒が達成することができたと考えられる。また、「社会科での学習がフィールドワークにもつながることは、どの程度意味があると思いますか」という問いでは、「かなり重要な意味がある」(19.7%)、「まあまあ意味がある」(66.7%)と、8割以上の生徒が学習の有用性を感じている。

このことから、生徒たちは自ら探究テーマを立てる力を持っている。そして社会科の学習の有用性を感じている。探究しがいのある問いを立てることは、社会科を学習する意欲や態度につながっていくと考えた。本単元では、近畿地方の特色ある地理的事象を取り上げ、多面的・多角的に考察することを通して、近畿地方の産業のあり方を構想することを焦点化する。近畿地方における課題は何で、どのようにして解決できるかを考えることは、生徒の学習する意欲や態度につながるのではないかと仮説を立てた。本単元の学習において、課題解決をする学習経験によって、より社会科の学習の有用性を高めるきっかけにしたい。

(3)指導観

パフォーマンス課題に向かっていく過程において、産業を維持・発展させていくための取り組みについて、地方議員の立場から提案を生徒に考えさせる。その際、どの地域(市町村, 都道府県)を選択するのかを考えたり、どの課題に対する解決策を構想するのかを判断したりする機会を設定する。また、提案をするにあたって、地図, 統計データ, グラフ, 近畿地方の産業の発展の歴史などを踏まえるように指導する。取り組みの提案において、個人で提案を構想したのち、グループで提案を再度構想し、内容をブラッシュアップするように指導していく。個別最適な学びにつながるように、生徒が選択・判断する機会を設けたり、グループで取り組む協働的な学びを取り入れることで、より深い理解につながるように指導を展開していく。

地理学の中心概念において、本単元では「空間的相互依存作用」「地域」を中心に取り上げる。人や資源、情報などが交通や通信によってどのように結びつき、産業を形成しているのかを構想するにあたり、これらの中心概念を活用していく。大阪 IR をきっかけにして、どのような地域が形成されていくのかを構想する授業を展開する。まだ見ぬ将来の社会の様子について、現在分かるデータや資料から考察するようにする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。・ 産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生じる課題を理解している。・ 地域の課題の解決につながる情報を読み取り、効果的な形式でまとめるなどの地理的技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none">・ 近畿地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・ 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5.単元の指導計画（全10時間）

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知 技	思 考	態 度	
第1次 第1時	学習課題について、見通しと予測を立てる。 「2025年以降、産業を維持・発展させていくために、どのような取り組みを行うとよいか。」	・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。（主体的態度）			●	ワークシート
第2次 第2～6時	①～④の各問いについて、各資料を用いながら、必要な知識や概念を獲得していく。 ①近畿地方では地形や気候にどのような特色が見られるのだろうか ②阪神工業地帯は、どのように発展してきたのか ③近畿地方の交通網は、どのように広がってきたのか ④近畿地方の観光業は、どのように発展してきたのか	・近畿地方について、地域的特色や地域の課題を理解している。（知識・技能） ・産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生じる課題を理解している。（知識・技能） ・地域の課題の解決につながる情報を読み取り、効果的な形式でまとめるなどの地理的技能を身につけている。（知識・技能） ・近畿地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。（思考・判断・表現）	●	●		ワークシート
第3次 第7～10時 （第9時が本時）	大阪IRと産業との関係から、近畿地方の産業のあり方について構想する。 ①市民から反対の声が上がっているにも関わらず、なぜ、大阪IRをつくらうとしているのか ②大阪IRは、本当に関西地域や日本を発展させることにつながるのか、について解決策を構想する。（本時） ③「2025年以降、産業を維持・発展させていくために、どのような取り組みを行うとよいか。」の問いに対する振り返りをする。	・近畿地方において、産業を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。（思考・判断・表現） ・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。（主体的態度） ・地域の課題の解決につながる	○	○	○	パフォーマンス課題 *ペーパーテスト

		情報を読み取り,効果的な形式でまとめるなどの地理的スキルを身につけている。(知識・技能)			
--	--	--	--	--	--

●…形式的評価(指導に活かす評価) ○…総合的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

近畿地方の産業を維持・発展するための取り組みについて,大阪 IR と関連づけて,多面的・多角的に考察し,解決策について構想する。(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の評価規準

近畿地方の産業を維持・発展するための取り組みについて,大阪 IR と関連づけて,多面的・多角的に考察し,解決策について構想している。(思考・判断・表現)

(3) 本時で発揮される「グローバル市民性」

本時で発揮される「グローバル市民性」は,課題解決策を構想する力である。その地域で見られる課題について,多面的・多角的に考察することで,課題の内容を理解する。その理解のもとに,解決策を構想することが,グローバル市民が備えている資質・能力であると考えた。

(4) 展開案

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いを理解する。 		
問い「大阪 IR は,本当に関西地域や日本を発展させることにつながるのか」			
展開	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに,「発展させることにつながる」グループと「発展させることにつながらない」グループに分けて,それぞれの意見を発表する。 大阪 IR をきっかけにして,関西の産業を発展させるには,私たちはどのような工夫をしたらよいか,考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となるデータを明示するように指導する。 発表の中で,意見が分かれるポイントを認識するようにする。 大阪 IR の利点と課題がある中で,どのような工夫をすることでよりよい社会を形づくることのできるのかを考えるようにする。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いに対して,自分の意見を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して,自分の意見を形成するように促す。 	思考・判断・表現(ワークシート)

(5) 準備物

教科書,タブレット端末,地図帳

7. 参考文献

吉水裕也『PBL 的社会科单元構成による中学地理の授業デザイン』明治図書出版, 2023 年

中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校地理の授業プラン&ワークシート』明治図書出版, 2021 年

石川智久, 多賀谷克彦, 関西近未来研究会『大阪の逆襲』青春出版社, 2020 年

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【中学校社会】』東洋館出版社, 2020 年

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省, 平成 29 年 7 月